## 郷中遺跡(本発掘調查B)

所 在 地 丹羽郡大口町上小口一丁目地内

(北緯35度20分48秒 東経136度55分03秒)

調査理由 交差点改良工事(一般県道斎藤羽黒線)

調査期間 令和5年5月~8月

調 査 面 積 190㎡

担 当 者 堀木真美子·酒井俊彦



調査地点(1/2.5万「犬山」)

調査の経過

調査は交差点改良工事(一般県道斎藤羽黒線)に伴い、愛知県県民文化局を通じて委 託を受けたものである。昨年度は上小口交差点西側と東側の県道沿い北側で370㎡の調 査を行い、2 度目となる今年度は、交差点東側の県道沿い南側 190 ㎡の調査を行った。

立地と環境

本遺跡の所在する大口町は犬山扇状地に位置し、遺跡は五条川左岸の沖積微高地上に 立地する。昨年度の調査では縄文時代中期後半の竪穴建物1棟と土坑が検出され、同時 期の縄文土器および石器類が出土している。

調査の概要

今年度の調査では近世から近代の溝が検出され、これに伴う陶磁器類が出土した。ま た、戦国時代以前の溝と土坑が検出された。戦国時代以前の遺物として須恵器、山茶碗、 戦国時代の陶器類などが少量出土した。

近世および近代の溝は主に南北方向に2条一組で走り、6条が検出された。これに直 交する東西方向の溝2条が検出された。溝より近世末から近代初めの瀬戸窯産陶器(各 種碗・皿類、すり鉢、常滑窯産甕)、磁器(皿)などが出土した。遺構に伴わない主な遺 物として少量の戦国時代の天目茶碗、すり鉢が出土している。また、近世の溝より規模 の大きい北西から南東方向に走る時期不明の溝が調査区西端で1条検出された。調査区 内で部分的に確認されたため全体の状況は不明である。遺物は出土しなかった。中世以 前の時期と考えられる。

まとめ

今回の調査で確認された近世の溝は現存の集落の道路および建物に近い方向をとる。 近世以降の屋敷地に伴うものである。調査区のある区域は戦国時代から近世に有力だっ た丹羽氏の本拠地であり、遺構・遺物はこれに関連するものと推定される。屋敷地の溝 とは方向が異なる時期不明の溝は中世以前の集落に伴う可能性がある。 (酒井俊彦)



調査区完掘状況(東から)



近世の溝(南から)